ろんだん佐賀

南雲　朋美
地域コンサルタント

なぐも・ともみ　広島県生まれ。慶応義塾大総合政策学部卒。星野リゾートで広報・ブランディングを担当した後、フリーに。有田焼400年事業や肥前吉田焼活性化プロジェクトに参画。現在は行政コンサルや宿泊施設のプロデュースのほか、慶応義塾大学と首都大学東京で非常勤講師も担う。東京都。

旅と恋

あなたに「力」をくれるもの

「旅の経験は将来に役に立ちます」

これは5年前にスペイン旅から帰国して、ある雑誌の編集長から言われた言葉である。旅に行く前はもちろん、行った後も無自覚なままだったが、最近それに気がついたことがあるので書いてみたい。

筆者は、この9月に東北など9県を高速道路は使わずに下道だけで周遊するドライブ旅をした。総走行距離1664㌔。8日間かかった。行くべき場所は全て友人知人のオススメ。ネットの口コミや評価は一切見ないで行ったので、想像と違うことはあったが、友人から見どころは聞いていたのでガッカリ感は全くなく、ワクワクドキドキのとても楽しい旅だった。

冒頭に書いた言葉を思い出したのは、岩手県で、ある人が熱心に勧めてくれた「宝来館」という旅館に泊まった時のことだ。東北地方、特に岩手、宮城の沿岸部は8年前の震災で大きな被害があった。「宝来館」は沿岸部にあり、津波で壊滅的な被害をうけていた。しかも、その様子はテレビで何度も見ていて胸を痛めていたので、正直言って宿泊するのには戸惑いもあった。

女将（おかみ）はあいにくと不在だったが、代わりに息子さんがお話ししてくれて分かったのは、旅館の女将は地元を元気づける存在だったということと。旅館再建の裏には万単位のボランティアがいたこと。そして、今は、補助金の返済等で難儀しているが、手弁当で経営指導をしてくれる人（宿泊を勧めてくれた人だ）のおかげで改善が図られていること、などだ。

話を聞きながら頭の隅にあったのは、津波の可能性がありるこの土地で、なぜ、営業を続けるのだろうか、という疑問だ。「再建してほしい」という声と同じくらいに「やめたほうがいい」という声もあったと思う。

しかし、話をするうちに、彼らの想（おも）いの中に、この土地に強い魅力と価値を感じて、ここで生きていくと決めた覚悟を感じた。そして、その想いや価値観を尊重して旅館再建の手伝いを始めて、ついには会社を辞めて、スタッフとして一緒になってまい進している人の存在に大きな意味があることにも気がついた。

世界には多様な価値観があり、旅をすることでそれを知ることができる。そして、価値観の多様性は〝自ら体験〟することが重要なのだ。そうして得られた経験はこれからの社会に「必ず」役に立つことができるのだ。

この土地にきて、自分の目で見て、耳で話を聞き、その土地の空気感のようなものを肌で感じないと理解できなかっただろう、と美しい海を眺めながら編集長の言葉を思い出した。

余談だが「旅をしない人はなぜ旅をしないのか？」と編集長に聞いた時の答えがなかなか秀逸だった。いわく「好きなものがないからかもしれませんね」と答えてくれた。

「例えば、ワインが好きならフランスまで行くかもしれないし、好きな人がいたら、その人とすてきな景色を共有したいと思いますよね。いろいろな経験をして、好きな人を増やしませたいというのもありますよね？」…だそうだ（笑）。

さあ、行楽の秋。好きなものの見つけ、ぜひ、旅にでかけましょう。読者の皆さんによき旅の巡り合わせがあることを祈っています。